

公益社団法人・日本技術士会・経営工学部会「11月見学会」報告

見学会幹事 阿津沢、奥田

1. 日時 平成30年11月5日(月) 8時30分~18時
2. 参加者 技術士30名(内非会員1名)
3. 見学先 (1)株式会社SUBARU 矢島工場(群馬県太田市庄屋町1-1)
(2)渋沢栄一記念館(埼玉県深谷市下手計1204)

4. 見学内容(別紙に写真添付)

(1)株式会社SUBARU 矢島工場

①ビデオ上映による、会社の歴史、伝承技術・新技術、CSRの説明

(株)SUBARU(旧、富士重工業(株))の「モノづくり」は、前進が東洋最大の航空機メーカー中島飛行機から受け継がれてきた「航空機設計の基本思想」を基に築かれている。昭和33年に発売されたスバル360は、当時の小型車をも凌駕する画期的な技術を満載し、庶民のマイカー所有の夢を現実に近づけた。以来、水平対向エンジン、シンメトリカルAWDシステム等を送り出してきた。また、近年、前方障害物への衝突回避のための運転支援システム「Eye Sight(アイサイト)」を確立している。

②展示ホール、SUBARUギャラリー見学

ガイドの説明を受けながら、前身である中島飛行機の技術者が開発した幻の車「スバルP-1」、初めて開発した「スバル360」から現在発売中の車までと、その背景となる技術・思想紹介の展示を見学した。

③工場見学

ガイドの説明を受けながら、高架の見学通路をたどり、プレス工程、ボディ溶接組立工程、最終組立工程を見学した。他の工場ではあまり見せていただけない溶接工程では、多数のロボットがダイナミックに稼働している様子をよく見る事ができた。

(2)渋沢栄一記念館

ガイドの説明を受けながら、「近代日本資本主義経済の父」といわれる渋沢栄一の事跡にまつわる展示を見学した。論語の精神を重んじ「道徳経済合一説」を唱え、各種産業の育成と多くの近代企業の確立に努めた。500余りの企業設立、600以上の社会福祉事業に関与している。

バス移動の途中車上からではあるが、栄一生誕の家、いところで師でもあり、富岡製糸工場の初代工場長でもある尾高惇忠の家も見ることができた。

5. 感想

- 自動車業界において、SUBARUは一味違った歴史や技術があることを理解できた。
- SUBARUの工場見学では、最終組立工程だけでなく、前段のプレス工程やボディ溶接組立工程までみる事ができ、自動生産の実際の理解がより深まった。
- 我国の近代資本主義経済の礎としての渋沢栄一の偉大さを感じる事ができた。
- 渋沢栄一の「道徳経済合一説」は技術者倫理に通じるものがある。
- 昼食に支給した地場で有名な弁当が華を添えた。

以上

平成 30 年 11 月 5 日 「SUBARU 矢島工場」、「渋沢栄一記念館」見学会写真

(1) SUBARU



ビデオ上映と説明



SUBARU ギャラリー



展示ホール



集合写真

(2) 渋沢栄一記念館



集合写真